

## ■ 楽譜出版の展望！ 楽譜出版の役割 ～こういう時代だからこそ～

一般社団法人 日本楽譜出版協会  
会長 佐々木隆一

2025年は世界の政治経済にとって波乱の時代になりそうです！日本では2024年は能登半島地震から始まり、政治的には自公政権の政権基盤が破綻、経済では円安などによる物価高騰が生活や事業環境を圧迫しています。2025年はインフレ圧力が更に高まることになるでしょう。楽譜も販売価格が高くなれば、デジタル楽譜のニーズがさらに高まることとなります。またネットでは違法な商品の流通が更に広がるでしょう！世界ではいまだにウクライナ戦争が継続し、中東での紛争はもはや戦争になっています。また、アメリカ大統領選挙の結果、トランプ氏が就任することになり、さらに世界の政治、経済の先行きが不透明になり、国際社会の混乱が広がることが予想されます。

このような厳しい環境の中では楽譜出版の経営にも影響が出ることは避けられません。

小生が会長に就任以来、デジタル化への対応の重要性は毎年申し上げている通り、今年はさらに印刷による事業環境は悪化し、デジタル事業基盤の一層の強化と進化を進めることが楽譜出版事業にとっても重要な課題となると思います。新譜情報DBやオンライン販売の共通基盤整備、オンライン楽譜（電子出版）事業を主軸に事業構成のネット対応デジタル対応の整備な

どは、加盟会社にとって共通の課題と思います。

＜楽譜出版協会の主導による共通課題＞

- ① オンライン販売体制の強化
- ② オンデマンド印刷体制の推進
- ③ 流通管理の合理化・楽譜DB整備と公開（新譜情報・在庫情報）
- ④ 教育機関や音楽教育団体との提携
- ⑤ 音楽オンラインコミュニティとの連携
- ⑥ SNSマーケティングの活用
- ⑦ デジタル出版を事業の主軸に育てる

協会は業界団体として加盟会社の出版事業基盤の共通化・合理化の課題に取り組み、事業経費・編集制作経費・管理流通経費の圧縮に関して検証することで、加盟社の経営コスト削減などの協業体制・協同組的な施策の研究も必要になると思います。

楽譜出版協会の加盟社が一体となってデジタル社会、オンライン社会の楽譜マーケット基盤を支える施策の強化に取り組むことが日本の音楽文化、音楽教育に貢献することになると思います。2025年が協会活動の活性化により、加盟社にとってより良い事業活動の年となるよう祈念いたします。

## ■「JASRACのネットワーク上の違法利用への取り組み」

一般社団法人 日本音楽著作権協会  
調査部 部長 横田訓也

JASRACはネットワーク上の違法利用の実態を捕捉するために、「J-MUSE」という専用システムを用いて監視活動を行っています。J-MUSEは2000年10月から運用を行っており、これまで、新たな機能を追加したり、監視対象を変更・拡大しながら、レベルアップに努めてきました。監視は24時間365日行っており、違法利用を発見したら、サイトの運営者やインターネットサービスプロバイダ（ISP）に削除を求めるメールを送っています。

一方で課題も抱えています。J-MUSEは、違法にアップロードされた音声や動画ファイル、歌詞の検知はできるのですが、楽譜については技術的に難易度が高く正確に検知することができません。とはいえ、検知できないから監視対象としないという訳ではなく、権利者やサイト利用者等からお寄せいただく情報をもとに、担当職員・スタッフが目視で確認し、違法利用かどうかを判断しています。このようにして収集した違法利用に通知したメール件数は2023年度実績で、サイト運営者に559件、ISPには2884件に上りました。

収集した違法利用の内容を見ると、概ね次の二つに大別できます。ひとつは、自身の「推し」を周囲に知ってもらいたい、思いを伝えたい、という自己顕示型です。近年はスマホで動画投稿やSNSでの発信を容易に行うことができますし、簡単にコンテンツを制作することができるソフトも充実しています。発信や制作のハードルが下がった一方で、著作者の権利を十分に理解しないまま、安易に著作権侵害行為に手を染めてしまっているケースがこれに当たります。このような違法利用には地道な著作権教育、啓発活動が有効であると考えています。現行の学習指導要領には、著作権を含む情報モラルを学校の教育活動を通じて指導することが盛り込まれています。このような教育が広まっていけば、社会全体で著作

権に対する意識の高まりが期待できますので、安易な違法利用を減らしていくことができるのではないのでしょうか。

もうひとつは、インターネットの匿名性や秘匿性を悪用して、巧妙に違法利用を行い、不正な利益を手しようとして企てるケースです。違法なコンテンツのアップロード先をウェブサイトやSNSを転々とさせ、なかなか尻尾を掴ませないケースや、海外から日本向けに発信し、日本国内での摘発を逃れようとする事例も見受けられます。このような悪質な侵害行為は正規ビジネスを阻害しかねないため、法的措置など断固たる態度で臨まなければならないこともあります。しかし、そのためには、被害者である権利者自らが侵害の実態を調査し、訴訟を提起するための準備に労力や費用をかけることになります。

このような状況を鑑みると、悪質な侵害行為に備えるためには、一歩踏み込んだ新たな法制度の整備が必要なかもしれません。

これまでリーチサイト対策、ダウンロード違法化、発信者特定強化など、法改正により一定の進捗が図られてきました。しかしながら、著作権侵害による被害を未然に防ぎ、違法サイト運営者に不正な利益を与えないようにするためには、現行の法令では限界があります。著作権侵害の発生を防止する、或いは発生したとしても即時に被害を食い止められることができるような制度の導入について、具体的な議論を進めても良いのではないのでしょうか。

そしてこのような議論を加速させていくためには、各著作権関係団体や企業が直面している課題や目指すべき将来像を全員が共有し、業界全体が一丸となって臨む必要があります。

JASRACとしましても皆様と連携・協働しながら違法利用の撲滅、適正市場の構築を実現できるよう努めて参ります。

## ■「これからの楽譜出版業界に思うこと」

一般社団法人 日本楽譜出版協会  
理事長 下條俊幸

コロナ渦による息苦しさと不安感は数年を経て徐々に消え去り、会員各社、また多くの関係者の皆さまには穏やかな新年を迎えられたことでしょう。希望と期待を膨らませつつ日々奮闘されていることと思います。

ご承知の通り。2025年は昭和100年に当たる年です。おそらく各地では記念行事とともに趣向を凝らした祝賀イベントもいろいろ企画されているのではないのでしょうか。

そんなことを考えていると、ふと60年近く前、まだ何も分からない小学生だった頃「明治百年」という、周辺が何かと騒がしかった記憶がおぼろ気ながら蘇り、印象は必ずしも悪くなかったように思います。今思うに貴重な瞬間を体験してきたと思うのですが、このたびの「昭和100年」とは、その質も趣もすこし違うように感じるのは私だけでしょうか。100年の「括り」としての捉え方の基本的態度は、言わずもがな懐古趣味ではなく、100年という期間での、その歴史と社会さらに生活環境等、変貌と経験の蓄積から多くを学びつつ、政治的功罪、社会の発展とその時代を生きた人々の哀歓の事実を踏まえ、その教訓を生かし将来の歩みへの決意を明らかにするというに他ならない。明治百年のその時代、末期ながら高度成長期であり、団塊世代が社会人として活躍し始める時期と重なって、労働力人口が拡大し、その後の日本経済を牽引していく、勢いのある社会的背景であったのに比べ、「昭和100年」の今を眺めたとき、「2025年問題」としてメディアで取り沙汰されているように、超高齢化社会を迎えるにあたり、年金、社会保障制度、労働力不足等の解決策さえ見いだせず多くの不安材料をあげつらい、そして煽るかの如く、ますます私たちの目の前で顕在化しているのもまた事実ではないのでしょうか。DX社会の発展と今後の劇的な変容で、それを健全に補っていくことを切に願い、不安と同居しながらでも失望することなく、冷静にバランスをとりつつ、発展的で豊かな年にしていきたいものだと思います。

さて、私たちの楽譜出版業界は、1960年代後半の高度成長期に、その発展への火蓋を切り、生活水

準の向上と共に、1970年台では団塊ジュニアの恩恵を受け、さまざまなジャンルに対応した新たな出版業の仲間が加わり、現場の演奏スタイルへの対応とともに、それぞれ加速度的な成長を遂げながら発展して参りました。その過程では、その時代ならではの課題に向き合い、ひとつひとつ解決しながら今に至ります。初期においては『コンテンツの拡充』。1980年前後からの発展期では『ジャンルの拡大』。1990年以降の安定期には『クオリティの向上』という、その時々の課題に直面し、各社事業運営して参りました。それは楽譜を必要とする多くの方々の常に変化するニーズに対応するもので、それはこれから先も間違いなく続いていくでしょう。

冒頭に記しているように、今悩ましい現実として「2025年問題」があります。その背景にあるのは、急速に進む少子高齢化ということはご承知の通りです。それは私たち楽譜出版業界にもさらに大きな影響を及ぼすことは自明の理です。楽譜出版物の中でも影響の大きいジャンルは教育教材系楽譜になるのですが、間違いなく時間差で様々なジャンルにも影響が出てくるでしょう。

さて私たちは、どのような態度と行動で、その現実に向き合っていけば良いのでしょうか。価格戦略でもなければ、この期に及んで陣取り合戦でもないでしょう。

思い出してください。数十年前の楽譜業界の成長期と安定期で経験した「質」の向上に向けたそれぞれの事業戦略と作り手としての純粋な「想い」を。私たちの出版活動は、豊かで幅の広い音楽表現に応える質の高い楽譜の提供に他なりません。それは社会的な役割ともいえるものです。その役割を、各社多様なパフォーマンスで足並み揃え果たすことが出来れば、間違いなく演奏機会の増加のみならず学習継続につながり演奏水準の向上、ひいては音楽文化の発展となるものと確信し、これからも楽譜出版協会の活動を続けて参りたいと思います。

会員各社及び関係団体のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。



## 委員会活動報告

### 販売対策委員会

販売対策委員長 野田修市（ドレミ楽譜出版社）

販売対策委員会の主な活動は、業界キャンペーンの主権や音楽業界イベントへの参加することで、「楽譜・音楽書」販売の保守・保管活動の一環としております。また、販路情報の共有及び業界内での取り決めなどについては、日本楽譜販売協会を交え協議を実施。他団体の活動内容についての情報共有や意見交換なども重ねております。

今期の活動について主催している「楽譜・音楽書祭り」に関しては、円安による物価高騰により郵便

### 著作権委員会

著作権委員長 木村一貴（カワイ出版）

あけましておめでとうございます。

昨年は、著作者人格権に関するニュースが取り上げられる機会が多かったように思います。生成AI（人工知能）の発展により、誰もが簡単に他者の作品をアレンジしたり、“それらしい”作品を作り出せる時代になり、改めて創作の定義が問われているように感じています。

生成AIについては課題が多い一方で、使い方次第では制作を飛躍的に進められる可能性を持っています。結局のところ創作者への敬意や作品の本質を見る目は人間が養うしかなく、係る著作権問題と共に

### 制作委員会

制作委員長 新居隆行（全音楽譜出版社）

年頭にあたりご挨拶申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいいたします。

制作委員会は現在、ネットワーク委員会・著作権委員会とともに、JASRACとの意見交換会に向けた準備を進めています。先般、会員各社の皆さまからお寄せいただいたご意見を拝読し、多くの課題があることをあらためて認識した次第です。解決は容易ではないと思いますが、少しでも改善することができるよう、努めたいと思っております。

さて、報道等でご承知のことと存じますが、かつ

代や印刷代など事業環境も変化しております。恒例行事として存続可能な改変を予定しております。

委員会活動に関しては、主に店頭において「コピー禁止や楽譜写真撮影の禁止」など違法行為に対する働きかけ、消費税総額表示への対応について協会方針等を告知など、適時行ってまいります。今後も協会及び委員会活動へ理解を求めつつ、多様な意見を議案化し業界の販売活性化や意見交換による情報の共有などを図ってまいります。

来年度について「楽譜・音楽書祭り2025」は開催決定。「東京楽器博2025」の参加を前向きに検討しております。

勉強を続ける必要があるように思います。

昨年の本委員会は、参集とオンラインを併用しながら開催し、急速に進化するデジタル・ネットワークに関する著作権問題について議論と勉強をいたしました。その結果、11月に著作権講座・研修会を開催し、皆様からご要望の強かったケーススタディを実施、実務に即した内容で著作者人格権や生成AIに関する諸問題を皆様と一緒に学びました。

本年も継続して著作権講座・研修会の開催を予定しております。また、各委員会との連携を強め、活動の幅を拡げて参りたいと考えております。

引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

て当協会の加盟社であったフェアリー社が訴えを起こした裁判で、昨年、高裁による二審の判決が出されました。「努力の所産にただ乗りすることけしからぬ！」フェアリー社の主張がほぼ認められた判決に、溜飲の下がる思いをされた方も多いのではないのでしょうか。被告側の上訴により裁決は最高裁に持ち越されたようですが、行方が気になるところです。

紙であれ、電子であれ、我々楽譜出版社の役割は同じだと思えます。教育のための楽譜、新しい作品を広めるための楽譜、趣味として楽しむ人たちのための楽譜・・・様々ありますが、いずれにせよ、我が国の音楽文化発展のため、これからも切磋琢磨していきましょう！

### ネットワーク委員会

ネットワーク委員長 北村嘉孝（ジャパン・ミュージックワークス）

皆様、新年明けましておめでとうございます。

ネットワーク委員会では四半期毎に委員会を開催し、都度生じている課題について議論してまいりました。本年も協会Web内「楽譜利用についてのご報告フォーム」にて不適切と疑われるサイトのご報告があり、当協会内やJASRACとも情報共有し事実把握と改善へ働きかけております。引き続き皆様におかれまして気になる事案が御座いましたらご報告ください。本年はJASRACとの意見交換会の開催を予定しております。開催に先立ちアンケートにて実務

### SARTRAS 関連対策特別委員会

SARTRAS 関連対策特別委員長 今井康人（教育芸術社）

SARTRAS（授業目的公衆送信補償金等管理協会）による補償金の徴収は今年4月で5年目に入りますが、昨年度からSARTRASによる分配事業や共通目的事業、組織体制等について点検・検討を行う、いわゆる「3年レビュー」が実施されています。その主な論点は、①教育機関からの利用報告の精度 ②分配単価の算出方法 ③補償金の分配方式といったものです。既に2023年度からは利用報告の内容の一部をプルダウン方式にする、2024年度は利用報告の対象教育機関数を1,200件から1,800件に増やす、な

### 広報委員会

広報委員長 下條俊幸（全音楽譜出版社）

本年度の活動は、「楽譜・音楽書祭り2024」の告知及び併催のディスプレイ大賞に関するウェブサイトでの情報掲載、会報関連、ホームページ定期更新などを中心に滞りなく進行しつつ、定期開催の委員会におきましては、組織拡大への取組みとして、その手段方法のより具体的な検討を中心に活動しております。

従来までの本会員社を対象とした勧誘活動に賛助会員まで枠を広げ、楽譜・音楽書の出版関連する会社・団体、加えて音楽愛好者などを対象として、私たち出版事業の将来的な可能性とともに激変する社

面など多数のご意見を頂戴いたしました。ご協力に大変感謝申し上げます。JASRAC申請の利便性向上など、楽譜取扱いの改善が促される建設的な会合の開催を目指して参ります。

昨年は楽譜制作の模倣行為が不法行為に当たる画期的な判決が出されました。今後も楽譜を取り巻くネット環境において新たなモデルが出現する可能性があります。このようなネットワークを介した楽譜利用において正しい利用方法を啓蒙し、楽譜出版に関わる皆様が不利益を被ること無く楽譜業界の持続的な発展の為に当委員会において状態把握し皆様に共有してまいります。本年もネットワーク委員会活動へのご支援ご協力、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

どの改善がなされており、この見直しによって更なる改善が期待されます。

SARLIB（図書館等公衆送信補償金管理協会）は、現在補償金の収受・分配の仕組みを構築中ですが、現状さほど多くの図書館の参加が見込まれないこと、実質的に「楽譜」が公衆送信対象から除外されている状況の中、今後当協会がSARLIBにどのように向き合っていくのか、ということについての検討も必要となるでしょう。

いずれにおいても従来通り、当協会の会員社にとって不利益が生じないよう、適切に対処して参る所存です。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

会と生活スタイルの変化を受け、販売、流通、楽譜制作、さらに権利上での様々な問題点と課題等を協会内での共有事項に止まることなく、内外に広く発信していくことで、当協会への理解が深まり、意識だけでなく連携が可能となり、活動の持続可能性の向上に繋げて参りたいと思います。

また今期は、楽器フェアの変わる業界のイベントである「東京楽器博2024」への出展に伴い、楽譜コピー問題協議会（CARS）にて作成している啓発用リーフレット等を私たちの手で活用することが出来ました。

今期残すところは僅かではありますが、今後もメンバーの知見と行動力、協働を図りつつ、委員会活動に取り組んで参ります。引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

## 関連団体活動報告



### 文化芸術推進フォーラム 2024年度の活動

(一社) 日本楽譜出版協会 理事・事務局長 島 茂雄

今年度の事業内容は、(1) コロナ禍で顕在化した課題。国立劇場再整備の遅れに表れる劇場の課題、補正予算終了に伴い求められる芸術活動への補助金の課題、芸術家等のセーフティネットの課題、AI など著作権・著作隣接権の課題、芸術家・スタッフなどの専門家教育、公益法人、税制など基盤改善の課題。(2) 芸術界の課題を、分野を超えて文化芸術推

進フォーラム内、社会と共有する取組。AI、補助金、セーフティネット、契約などのテーマに絞ったフォーラムの開催、課題の社会的共有のため、Web 改修やマスコミへの発信など、広報活動の強化、重要課題について国会に対してアピール。(3) 国の文化行政の強化に向けての課題。文化芸術省の創設、文化芸術振興議員連盟がまとめた「これからの日本に求め

られる文化を所掌する『文化芸術省』創設の提言」「『五輪の年には文化芸術省』実現に向けた決議」を踏まえ、実現に向けた戦略を再構築し、政府、各党等への働きかけを進める。独立行政法人日本芸術文化振興会の助成機能強化、文化芸術の国際的な人的・活動交流、文化観光などの再開と発展の施策を。

### 楽譜コピー問題協議会 (CARS) 「2024年度活動」

(一社) 日本楽譜出版協会 理事・事務局長 CARS 幹事 島 茂雄

今年度の総会と幹事会で決定された主な活動内容は、①楽譜の無断コピーに関する啓発活動。2024年度は、ホームページ及びパンフレットの全面的なリニューアルを実施することによって、「知りたい情報をダイレクトに提供する啓発」を実現し、啓発効果の向上を図る。合わせて、SNS に関して、啓発対象の裾野を拡大すべく、閲覧者数の増加に取り

組む。②楽譜の無断コピー問題に関する調査研究。音楽大学、音楽図書館等に対してヒアリングを実施し、楽譜ユーザーの最新の利用実態を把握するとともに、楽譜利用に関してユーザーが知りたいことは何かを探り、有効な啓発方法の検討に活用する。③各種関係団体、音楽関係者等との交流及び情報交換。音楽大学、音楽図書館等との交流を推進し、ポ

スターの揭示、パンフレット・チラシの配布等を要請するとともに、継続的な協力体制の構築を目指す。④その他本会の目的を達成するために必要な事業。著作権法改正に係る動向や、アフターコロナ期における社会情勢等を踏まえ、楽譜ユーザーに配慮した適切な活動を推進する。

### JCOPY 2024年度の活動

(一社) 日本楽譜出版協会 理事・事務局長 島 茂雄

今年度の活動も、出版物の複製利用等について出版者からの委託を基に、利用者に許諾を行うライセンス業務を行ってきた。これに加え一昨年度より、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会 (SARTRAS) の社員である出版教育著作権協議会における検討も踏まえ、SARTRAS が取受した補償金のうち出版者が権利を有している著作物等に関する分配業務と、2021年度分、2022年度分利用報告整備協力作業を受託し、JCOPY としてライセンス

に関する業務以外を行うこととなった。2023年3月現在、JCOPY が直接許諾している国内紙媒体複製許諾が書籍約25万811点、定期行物945点、電子媒体複製許諾が書籍約7万8千点、定期行物587点、教育目的利用が約7万8千点であった。複写権使用料収入は、2023年度分は、約2億9千万円と報告された。教育目的利用許諾に関しては、登録総数78,554点であった。なお、国外著作物の登録数総計は2,390,198点となった。SARTRAS が実施する授業目的

公衆送信補償金分配業務については、分配業務については、2021年度分を2023年6月1日に、2022年度分を2023年9月21日に、それぞれ SARTRAS と委託契約を締結した。各契約を基に SARTRAS より、2021年度分として分配可能額430,773,909円を受領し、国内出版者210社に対して292,811,937円を、海外複製権管理4団体に73,248,752円を、それぞれ送金した。(JCOPY 2023年度事業報告書より)

### ■ 「楽譜・音楽書祭り2024」～第12回を迎えて～ 報告 ■ 「楽譜・音楽書祭り2024 in 東京楽器博2024」～第1回について～ 報告

「楽譜・音楽書祭り 2024」  
実行委員会委員長 春日井 健

今年度で第12回目となりました「楽譜・音楽書祭り」は「6月6日は楽器の日」を挟む5月15日から8月31日の期間で行われました。コロナもほぼ平穏に戻り通常での開催となりましたが、無事開催出来ましたのも関係者皆様のご支援ご協力無しにはあり得ませんでした。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

今年度のキャンペーンは昨年度の応募総数と比較しますと残念ながら減少となりましたが900通を超えるご応募を頂き恒例イベントとして定着している事を実感しております。購入先としてここ数年EC店舗の増加傾向がありましたが、今年は実店舗様での購入が上回りました。常々実店舗様を盛り上げたい思いが強いことから喜ばしい結果と感じており

ます。今年度も2017年から開始しましたディスプレイ大賞に多くの小売店さまからご参加頂きましたが、昨年41店舗から78店舗へと大幅に増加致しました。お祭り感を演出して頂き御礼申し上げます。また新たに今年で第二回目を迎えた東京楽器博に初参加させて頂きました。初ということでは至らない点も多々あったかとは思いますが、来場者数は昨年の第1回を大幅に上回る結果になったとお聞きし集客力向上に微力ながら貢献出来たのではないかと感じております。

楽譜音楽書祭り、東京楽器博に関して年内には実行委員会を中心に来年度に向けての話し合いを設ける予定です。今回の反省を活かし試行錯誤しながら邁進して行ければと思っております。

## 一般社団法人 日本楽譜出版協会 組織

令和6年10月1日

会長	佐々木隆一 / (一社) 著作権情報集中処理機構 会長	制作委員会
理事長	下條俊幸 / (株) 全音楽譜出版社	委員長 新居隆行 / (株) 全音楽譜出版社
副理事長 兼 会計理事	時枝 正 / (株) 音楽之友社	副委員長 中澤 慶 / (株) 音楽之友社
理事	森田敏文 / (株) シンコーミュージック・エンタテイメント	ネットワーク委員会
理事 兼 事務局長	島 茂雄 / (一社) 日本楽譜出版協会 事務局	委員長 北村嘉孝 / (株) ジャパン・ミュージックワークス
監事	片岡新之助 / (有) ケイ・エム・ピー	副委員長 河合正仁 / (株) シンコーミュージック・エンタテイメント
顧問	本橋慎弥 / 前理事・前事務局長	副委員長 中山 壘 / (株) 全音楽譜出版社
名誉顧問	内田 豊 (故人) / 初代責任理事	広報委員会
販売対策委員会		委員長 下條俊幸 / (株) 全音楽譜出版社
委員長	野田修市 / (株) ドレミ楽譜出版社	副委員長 片岡新之助 / (有) ケイ・エム・ピー
副委員長	春日井健 / (株) シンコーミュージック・エンタテイメント	SARTRAS 関連対策特別委員会
副委員長	服部太一 / (株) リットーミュージック	委員長 今井康人 / (株) 教育芸術社
著作権委員会		副委員長 山田真孝 / 教育出版 (株)
委員長	木村一貴 / カワイ出版 (株) 全音楽譜出版社カワイ出版部)	
副委員長	山田真孝 / 教育出版 (株)	



6月6日は楽器の日

# 楽譜・音楽書祭り 2025

5月15日～8月31日

楽器店で使える JCBギフトカード

A賞 20,000円 10名様 B賞 10,000円 10名様

C賞 トレモロ カリンバキット 10名様  
D賞 バードコールキット 10名様

W賞 A～D賞に外れた応募者から抽選  
QUOカード 1,000円 60名様

東京楽器博2025開催 11月1～2日【科学技術館】

参加予定出版社 音楽之友社、カワイ出版、ケイ・エム・ピー、自由現代社、春秋社、シンコーミュージック・エンタテイメント、全音楽譜出版社、ドレミ楽譜出版社、日研、ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス、ライリスト社、リットーミュージック

主催：一般社団法人日本楽譜出版協会 共催：日本楽譜販売協会 一般社団法人全国楽器協会

詳しくは [www.j-gakufu.com](http://www.j-gakufu.com)



「一般社団法人日本楽譜出版協会」加盟社一覧 (五十音順) (2024年[令和6年]10月01日現在)

会社名	代表者	住所	ホームページ
アルソ出版(株)	上原 浩嗣	161-0033 新宿区下落合 3-2-16-2F	<a href="https://www.alsoj.net">https://www.alsoj.net</a>
(株) エー・ティー・エヌ	小林 小百合	161-0033 新宿区下落合 3-12-21 目白エミネンス 102 号室	<a href="https://www.atn-inc.jp">https://www.atn-inc.jp</a>
(株) 音楽之友社	時枝 正	162-8716 新宿区神楽坂 6-30	<a href="https://www.ongakunotomo.co.jp">https://www.ongakunotomo.co.jp</a>
(株) Gakken (リカレント編集課専門書・音楽チーム)	滝口 勝弘	141-8416 品川区西五反田 2-11-8-18F	<a href="https://www.editionkawai.jp/">https://www.editionkawai.jp/</a>
カワイ出版(株) 全音楽譜出版社カワイ出版部	早川 由章	161-0034 新宿区上落合 2-13-3 全音楽譜出版社内	<a href="https://editionkawai.jp">https://editionkawai.jp</a>
(株) 教育芸術社	市川かおり	171-0051 豊島区長崎 1-12-14	<a href="https://www.kyogei.co.jp/">https://www.kyogei.co.jp/</a>
教育出版(株)	伊東 千尋	135-0063 江東区有明 3-4-10 TFT ビル西館	<a href="https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/">https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/</a>
(株) 共同音楽出版社	豊田 治男	171-0051 豊島区長崎 3-19-1	<a href="https://www.kyodomusic.jp/">https://www.kyodomusic.jp/</a>
(有) ケイ・エム・ピー	片岡 博久	171-0043 豊島区要町 3-41-10 新東京観光ビル 2F	<a href="http://www.kmp.co.jp">http://www.kmp.co.jp</a>
(株) 現代ギター社	廣瀬 利明	171-0044 豊島区千早 1-16-14	<a href="https://www.gendaiguitar.com">https://www.gendaiguitar.com</a>
(株) サーベル社	鈴木 祥子	130-0025 墨田区千歳 2-9-13 ルックハイツ两国 1F	<a href="https://www.saber-inc.co.jp/">https://www.saber-inc.co.jp/</a>
(株) ジャパン・ミュージックワークス	北村 嘉孝	101-0031 千代田区東神田 1-10-4 新川ダイユビル 902	<a href="https://www.at-elise.com/">https://www.at-elise.com/</a>
(株) 自由現代社	竹村 欣治	171-0033 豊島区高田 3-10-10 ドレミ・サーティース・メモリアル 5F	<a href="https://www.j-gendai.co.jp">https://www.j-gendai.co.jp</a>
(株) 春秋社	小林 公二	101-0021 千代田区外神田 2-18-6	<a href="https://www.shunjusha.co.jp">https://www.shunjusha.co.jp</a>
(株) シンコーミュージック・エンタテイメント	草野 夏矢	101-8475 千代田区神田小川町 2-1	<a href="https://www.shinko-music.co.jp">https://www.shinko-music.co.jp</a>
(株) 鈴木楽器製作所	鈴木 禮子	430-0852 浜松市中央区領家 2-25-7	<a href="https://www.suzuki-music.co.jp">https://www.suzuki-music.co.jp</a>
(株) 全音楽譜出版社	鈴木 智治	161-0034 新宿区上落合 2-13-3	<a href="https://www.zen-on.co.jp">https://www.zen-on.co.jp</a>
(株) 東音企画	福田 成康	170-0002 豊島区巢鴨 1-15-1	<a href="https://www.to-on.com">https://www.to-on.com</a>
(株) ドレミ楽譜出版社	山下 浩	171-0033 豊島区高田 3-10-10 ドレミ・サーティース・メモリアル 4F	<a href="https://www.doremi.co.jp">https://www.doremi.co.jp</a>
(株) 日研 (くおん出版)	吉川 秀雄	577-0065 東大阪市高井田中 3-8-5	<a href="https://nikken-p.com/kuon/">https://nikken-p.com/kuon/</a>
(一般財) ヤマハ音楽振興会	串田 厚司	153-8666 目黒区下目黒 3-24-22	<a href="https://www.yamaha-mf.or.jp">https://www.yamaha-mf.or.jp</a>
(株) ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	石垣 敦子	220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 5-1-2 横浜シンフォニーステージウエストタワー 7F	<a href="https://www.yamaha-meh.co.jp">https://www.yamaha-meh.co.jp</a>
(株) ライリスト社	岩間 昌一	466-0051 名古屋市中昭和区御器所 1-6-24	<a href="https://www.lyrist.co.jp">https://www.lyrist.co.jp</a>
(株) リットーミュージック	松本 大輔	101-0051 千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング	<a href="https://www.rittor-music.co.jp">https://www.rittor-music.co.jp</a>

当協会では随時入会を受け付けております。条件は1.会社の業態として楽譜の出版及び販売を行っていることが明らかであること、2.本会の目的に賛同し、入会金並びに会費を納める者、の2点です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

日本楽譜出版協会会報第 39 号 (2025 年 1 月発行)  
 発行人：佐々木隆一 理事長：下條俊幸 編集人：下條俊幸  
 発行所：一般社団法人 日本楽譜出版協会事務局  
 〒 101-0021 千代田区外神田 2-18-21 楽器会館 4F  
 電話 & FAX 03-3257-8797 Eメール ofc@j-gakufu.com  
 ホームページ <http://www.j-gakufu.com>

この日本楽譜出版協会会報の定期購読をご希望の方は、送料のみのご負担で受け付けております。事務局までご連絡下さい。